

番号	項目	ご意見
	2. 我が国の航空分野の現状	
(1)	①民間企業が取り組むにはリスクの高い研究開発への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発そのものが期待されているという主旨ではなく、需要に応える研究開発を行い、その成果が社会に還元されることが期待されるという主旨であることに留意する必要がある。「民間企業が取り組むにはリスクの高い研究開発への取組」については社会からの需要に応える研究開発を行い、それを還元するという内容になる。
(2)	④基礎力と応用力を身につけた人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力と応用力を身につけた人材の育成については、研究者が基礎力と応用力を身につけるのは当然であるので、理想の人材像としては成果を社会に還元するまでの視野と実行力をもつ人材の育成が適切ではないか。
(3)		<ul style="list-style-type: none"> ・理想としては基礎研究と出口志向の研究をどちらもできると良いが、国際的トップレベルの基準で両立するのは実際問題難しい面もあることから、書きぶりはJAXAの意見も踏まえながら検討した方がよいのではないか。
(4)		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎と出口という観点に加えて、短期的な視点と長期的な視点という観点もある。長期的な視点には基礎的な研究が含まれるのではないか。両方の視点が必要なので、どちらかに偏ることのないよう書いて頂ければよいと思う。
(5)		<ul style="list-style-type: none"> ・航空分野は裾野の広い分野であり、システムと個別の要素の両方を知ってシステムインテグレーションできるという人材が育ちにくい。システムをやっている人は細部まで目が届かないという傾向がある。ISASなどでそれが既にできているかは承知していないが、システムと基礎技術開発の両方ができるような育成ができるとうい。

番号	項目	ご意見
	3. 航空科学技術分野における未来社会デザイン・シナリオの実現方策	
	3. 1 未来社会デザインとシナリオ	
(6)	①既存形態での航空輸送・航空機利用の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出削減技術と超音速技術はレベルが異なり一緒に扱わない方が良いのではないかと。CO2排出削減は社会的役割への大きな流れを踏まえたニーズであり、超音速はコロナ禍後の社会変容で求められる多様性への高付加価値のニーズと分けてとらえた方がよい。
(7)	②次世代モビリティ・システムによる更なる空の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代モビリティのところに宇宙輸送機というのが追加されているが、これをモビリティとっていいのか、違和感を覚えた。
(8)		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンの利用、利活用を強く出すよりは、無人航空機に関する基礎的な研究や運航管理などの記述があると良い。
(9)		<ul style="list-style-type: none"> ・次世代モビリティシステムの中のドローンの活用事例として災害対応や農林水産が挙げられているが、人口減を背景として過疎地の物流への活用が期待されている。また、インフラ維持管理などにも活用が期待されている。具体例が多くなるが、こういった新しい事例もある。

番号	項目	ご意見
	3. 航空科学技術分野における未来社会デザイン・シナリオの実現方策	
	3. 2 デザイン・シナリオを実現する研究開発、基盤技術整備の方向性	
(10)	③出口を見据えた産業界との連携	デュアルユースの拡大の主旨は防衛技術を想定しているのか。そうではないのか。文章で書く際はわかりやすく書いた方がよい。
(11)		・エコシステムという単語が突然出てくるので、文章では丁寧に書いた方がよい。
(12)		・また、エコシステムとして連携する相手としてメーカーやユーザーとあるが、出口側のニーズを取り入れる仕組みを位置付けて頂きたい。
(13)		・出口側からこういう研究開発が必要だという提案をしてJAXAが取り入れるような仕組みがあるとよい。
(14)		・重要なのはロードマップでは無く期限までに成果を出すための「やり方」であり、それを検討すべき。
(15)		・コンソーシアムについては、社会の需要を汲み上げるという観点でそれだけで十分なのか、他の手段が必要ないのか、継続的に評価することが必要。

番号	項目	ご意見
	4. 実現方策を支えるシステム改革	
(16)	4. 1 研究人材の改革	研究成果を出口まで導ける人材が求められる。その育成方針として、若手の時から出口につながる研究開発にも携わることが必要。現行の航空技術部門だけでは出口志向の研究開発に携わる機会が少ないかもしれないため、ISASなどJAXA内で出口よりの研究も経験するのが効果的ではないか。実績を積んだ人が次の管理職になれば、部門の組織も改善していく。
(17)	4. 2 研究資金の改革	研究資金について、国の予算であれば文科省や経産省の資金があり、それを得ての研究もある。限られた予算の中で効率的にそれを活用しながら進めるという観点も見えるとよい。次世代モビリティについては民間の動きが活発なので、民間資金を活用しながら進めることが書かれるとよい。
(18)		研究資金については、公的機関の資金、競争的資金の獲得についても重要。
(19)		予見不可能性の高いテーマに重点的に取り組むとあるが、重点的に取り組むべきは需要の高いテーマに対してハイリスクであっても取り組むという主旨ではないか